

2025年度（令和7年度）

福山大学での学修を振り返るアンケート  
実施報告書

福山大学大学教育センター  
教育開発部門

## 目次

【はじめに】 .....	- 1 -
【方法】 .....	- 2 -
【結果】 .....	- 4 -
(1) 回答率 .....	- 4 -
(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思 いますか（知識・技能面） .....	- 4 -
(3) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思 いますか（態度・精神面） .....	- 8 -
(4) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？ .....	- 12 -
(5) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たり ますか？ .....	- 16 -
(6) 自由記述「あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望み ますか？」に対する分析 .....	- 17 -
【総括】 .....	- 18 -

## 【はじめに】

令和7年度の卒業生を対象に実施した、「福山大学での学修を振り返るアンケート調査報告書」をここに刊行する。

本調査は、単なる学生の満足度を測るためのものではない。その真の目的は、「学修者が、本学での学びを通じて、最終的に何ができるようになったか？」という問いに対し、学生自身の自己評価を通じて教育成果を可視化することにある。大学教育における質保証が厳しく問われる現代において、我々が提供した教育課程が学生一人ひとりの知識、技能、そして態度・精神面にどのような変化をもたらしたのかを真摯に検証することは、教育機関としての責務である。

今回の調査では、卒業年次生731名を対象とし、94.9%という極めて高い回答率を得ることができた。この高い数値は、卒業を控えた学生たちが自らの学修を振り返り、本学にフィードバックを返そうとする主体的な姿勢の現れであり、報告書の信頼性を担保するものである。

調査結果からは、本学の教育の成果が鮮明に浮かび上がった。特に知識・技能面において、「専門的知識・技能」が向上したと実感している学生が非常に多く、全学平均でも高いスコアを記録した。さらに、心理学科における「他者を理解する力」や、機械システム工学科における「創造性」など、各学科が掲げる「3ポリシー」に基づいた教育特色が、学生の自己成長感として明確に反映されている点は、本学の専門教育が意図した通りに機能していることを示す。

一方で、今後の課題も浮き彫りになった。全学的に「リーダーシップ」の向上感が他項目に比べて低い点や、外国語教育に対する満足度の向上は、次なる教育改善の焦点となる。また、分析により、大学生活全体の満足感には「学生同士の一体感」や「学生支援体制」、「学習への意欲」が強く関連していることが明らかになった。これは、教育内容の充実だけでなく、学生を取り巻くコミュニティや支援環境の質が、学びの質を左右する重要な因子であることを示唆している。

本報告書にまとめられたデータは、福山大学がさらなる進化を遂げるための貴重な道標である。各学部・学科においては、この結果を真摯に受け止め、アドミッション、カリキュラム、ディプロマの3ポリシーのさらなる整合性向上と、教育環境の改善に役立てていくことを期待する。

最後に、多忙な卒業期に本アンケートに協力してくれた学生諸君に深く感謝するとともに、本学で得た「できるようになったこと」を自信に変え、社会の荒波を力強く渡っていくことを心より念願し、巻頭の言葉とする。

令和8年3月31日

大学教育センター長：鶴田 康人

教育開発部門長：木平 孝高

教育開発部門 工学部電気電子工学科 香川 直己

IR室：片桐 重和（データ集計・解析）

## 【方法】

令和7年度の「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）を学修支援システム「セレッソ」を利用して、令和7年12月1日～令和8年3月20日の期間で実施した。

### ① 調査項目

以下の（1）～（5）の設問（計22項目）についてアンケート調査を行った。

（1）福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：知識・技能面

下記の5項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 一般的な教養
2. 日本語の運用能力（表現と理解）
3. 外国語の運用能力（表現と理解）
4. 専門的知識・技能
5. コンピュータを用いた情報処理能力

（評価段階）

- |           |           |         |
|-----------|-----------|---------|
| 5：大きく向上した | 4：向上した    | 3：変わらない |
| 2：低下した    | 1：大きく低下した | 0：分からない |

（2）福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：態度・精神面

下記の9項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 協調性
2. 創造性
3. 意欲（やる気）
4. リーダーシップ
5. 他者を理解する力
6. チャレンジ精神
7. 知的面での自信
8. 社交面（人間関係）での自信
9. 自己理解

（評価段階）

- |           |           |         |
|-----------|-----------|---------|
| 5：大きく向上した | 4：向上した    | 3：変わらない |
| 2：低下した    | 1：大きく低下した | 0：分からない |

(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

下記の7 項目について調査した。

1. 共通教育（一般教養）の授業
2. 外国語の授業
3. 専門分野の授業
4. これからのキャリアに対する授業内容の有効性
5. 教職員による学生支援体制
6. 大学の中での学生同士の一体感

(評価段階)

5：とても満足している	4：満足している	3：普通
2：不満である	1：とても不満である	0：分からない

(4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

(評価段階)

5：100%	4：80%	3：60%	2：40%	1：20%	0：0%
--------	-------	-------	-------	-------	------

(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

自由記載

## ②集計方法

設問 (1) ～ (3) については、各質問項目の回答数に係数（強く肯定する回答には5、強く否定する回答には1）を乗じ、全回答数で除することで平均点を算出した。全卒業生のデータは、この平均点をレーダーチャートで表した。学科単位の卒業生のデータは、この平均値を棒グラフで表した。集計後、各回答数に強く否定する回答にも係数1を与えているため、最高点は5.0、最低点は1.0となる。なお、「0：わからない」の選択肢については、その回答を平均点の算出には用いていない。また、全卒業生の各質問項目の回答割合を棒グラフで示した。

設問 (4) については、回答割合を棒グラフで示した。設問 (5) については、意見をテーマ分類し、係る内容の回答者の満足度の高低の割合を解析し、傾向を「示唆」として記載した。

【結果】

(1) 回答率

回答率は94.9%（対象者731名、回答数694名）であった。学科別回答率を表1に示す。

表1 学科別回答率

【福山大学での学修を振り返るアンケート調査】回答率

〔卒業年次生対象〕

2026/3/20 現在

No	学 科	在籍者数	対象者	回答者数	回答率
1	経 済 学 科	147	145	134	92.4%
2	国 際 経 済 学 科	34	34	33	97.1%
3	税 務 会 計 学 科	38	38	38	100.0%
4	人 間 文 化 学 科	45	45	45	100.0%
5	心 理 学 科	48	48	32	66.7%
6	メディア・映像学科	37	37	37	100.0%
7	電 気 電 子 工 学 科	22	22	22	100.0%
8	建 築 学 科	49	47	47	100.0%
9	情 報 工 学 科	64	60	60	100.0%
10	機械システム工学科	22	21	21	100.0%
11	生 物 科 学 科	23	22	22	100.0%
12	健康栄養科学科	23	23	20	87.0%
13	海 洋 生 物 科 学 科	94	94	94	100.0%
14	薬 学 科	102	95	89	93.7%
計		748	731	694	94.9%

(注) 対象者：休学中・留年者を除く

設問 (1) ～ (5) に関わる結果を以下に示す。

(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか (知識・技能面)

全卒業生のデータで解析すると、各項目の平均点は外国語の運用能力 (表現と理解) を除いておよそ4点前後であるが、外国語の運用能力は3.5となっている (図1)。

具体的な回答割合を見てみると、「専門的知識・技能」で40.8%の学生が「大きく向上した」と回答しており、最も評価の高い項目であった。続いて、「コンピュータを用いた情報処理能力」27.5%、「一般的な教養」25.9%、「日本語運用能力 (表現と理解)」22.9%が高い項目であった。一方、「外国語の運用能力 (表現と理解)」で「大きく向上した」と回答したのは、11.4%で最も低かった。

これらの傾向は、昨年度の集計結果と酷似している。

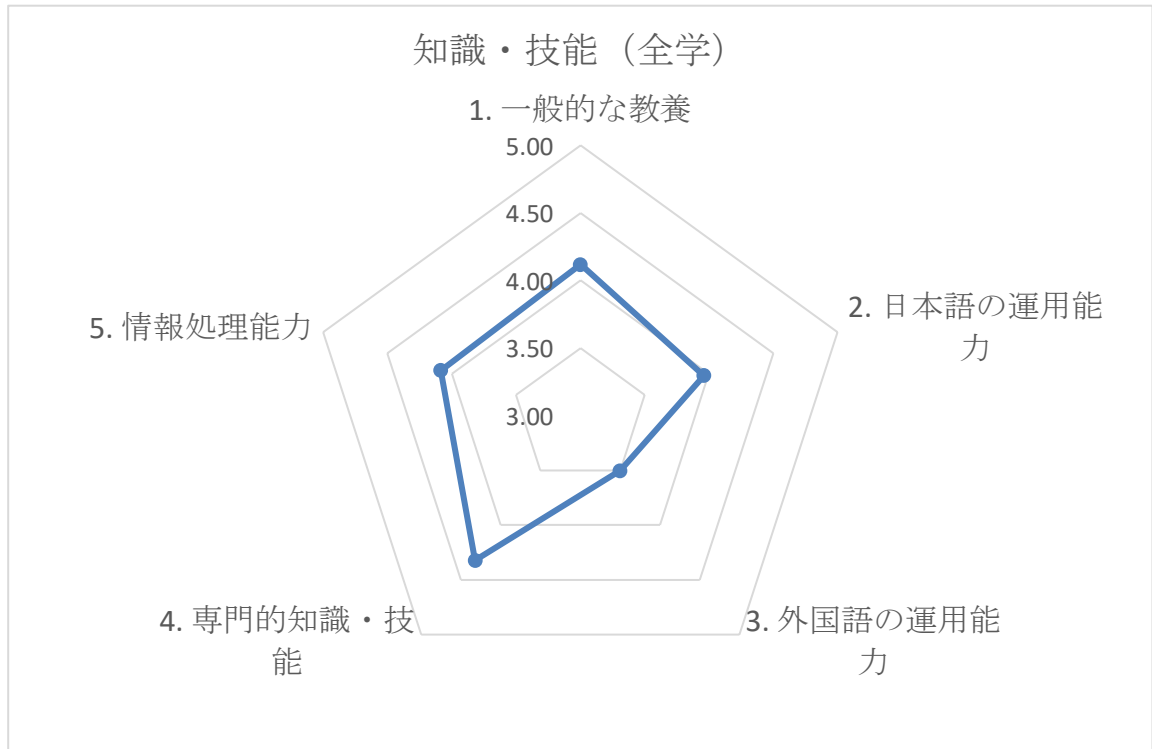


図1 知識・技能面での自己評価（自己評価結果の平均、全卒業生）

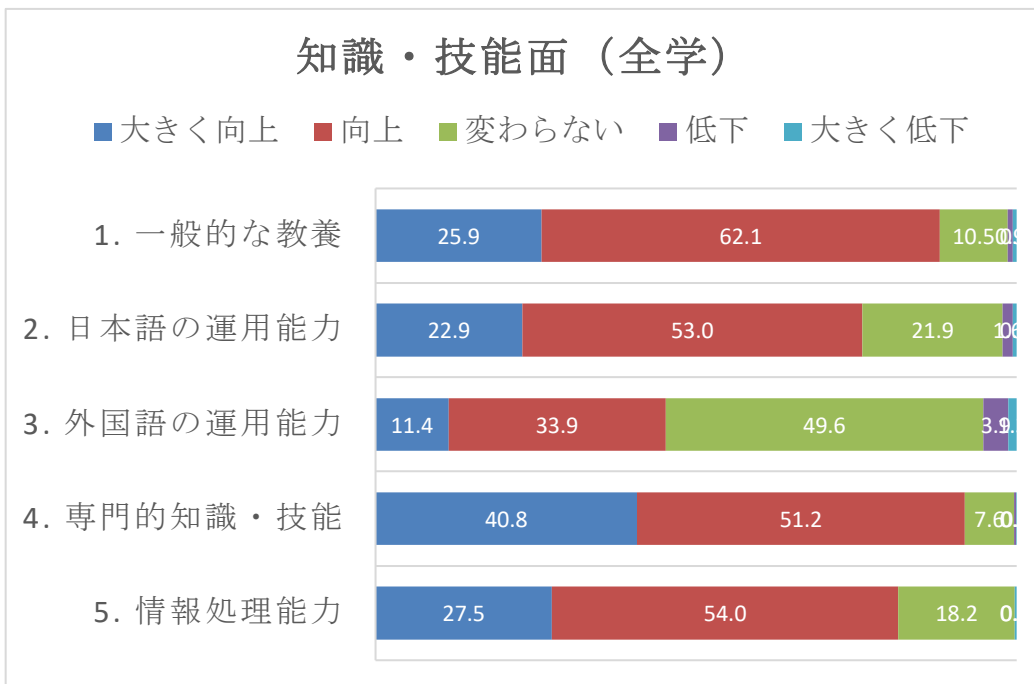


図2 知識・技能面での具体的回答割合（全学）

次に、図5から図7に学部学科別に同様の解析を行った結果を示す。全卒業生の結果と同様の傾向が認められつつも、学部学科毎に特徴があることが分かる。

「専門的知識・技能」の質問項目は、どの学部学科も4を超えるが、機械システム工学科（図5）、生物科学科（図6）、薬学科（図7）において4.5を超える高いスコアとなっている。

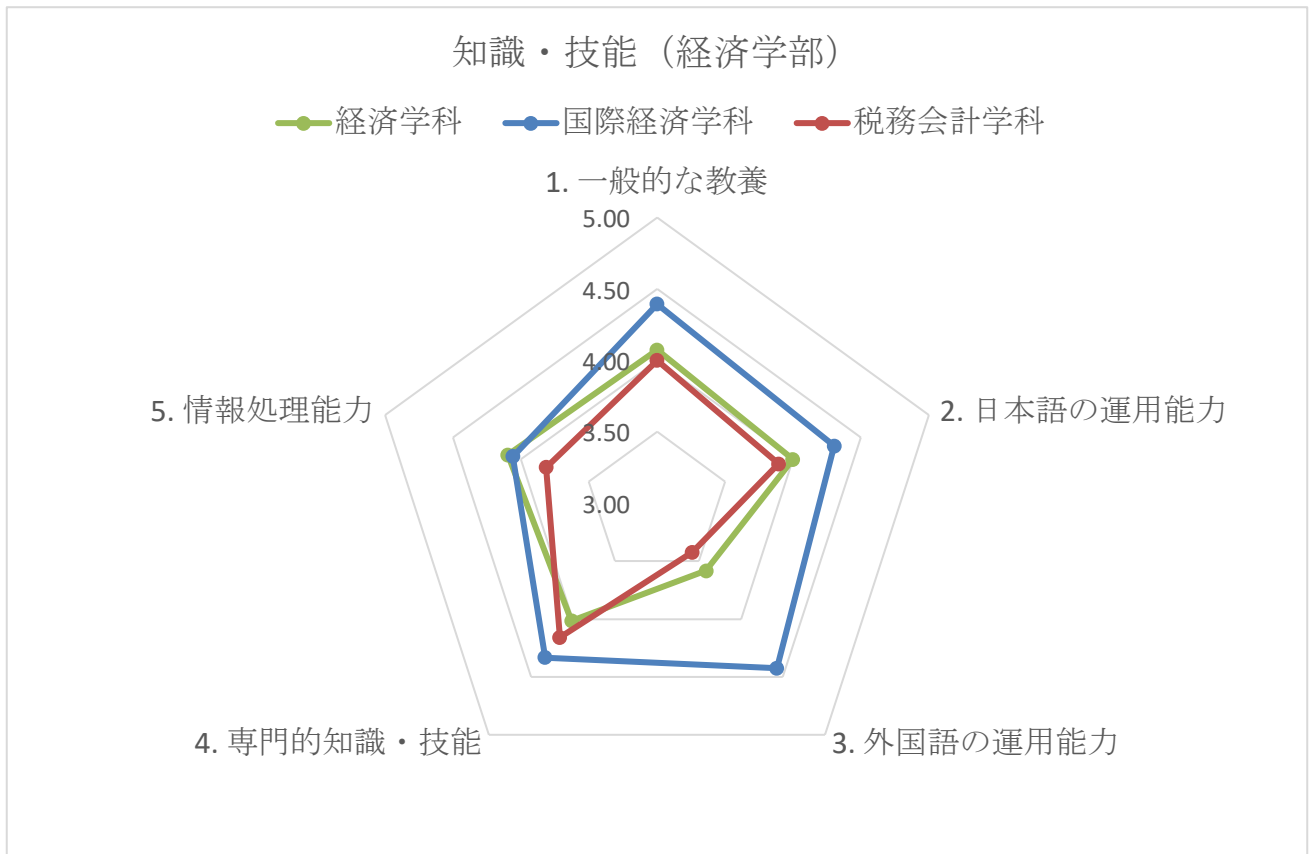


図3 知識・技能面の自己評価（経済学部）

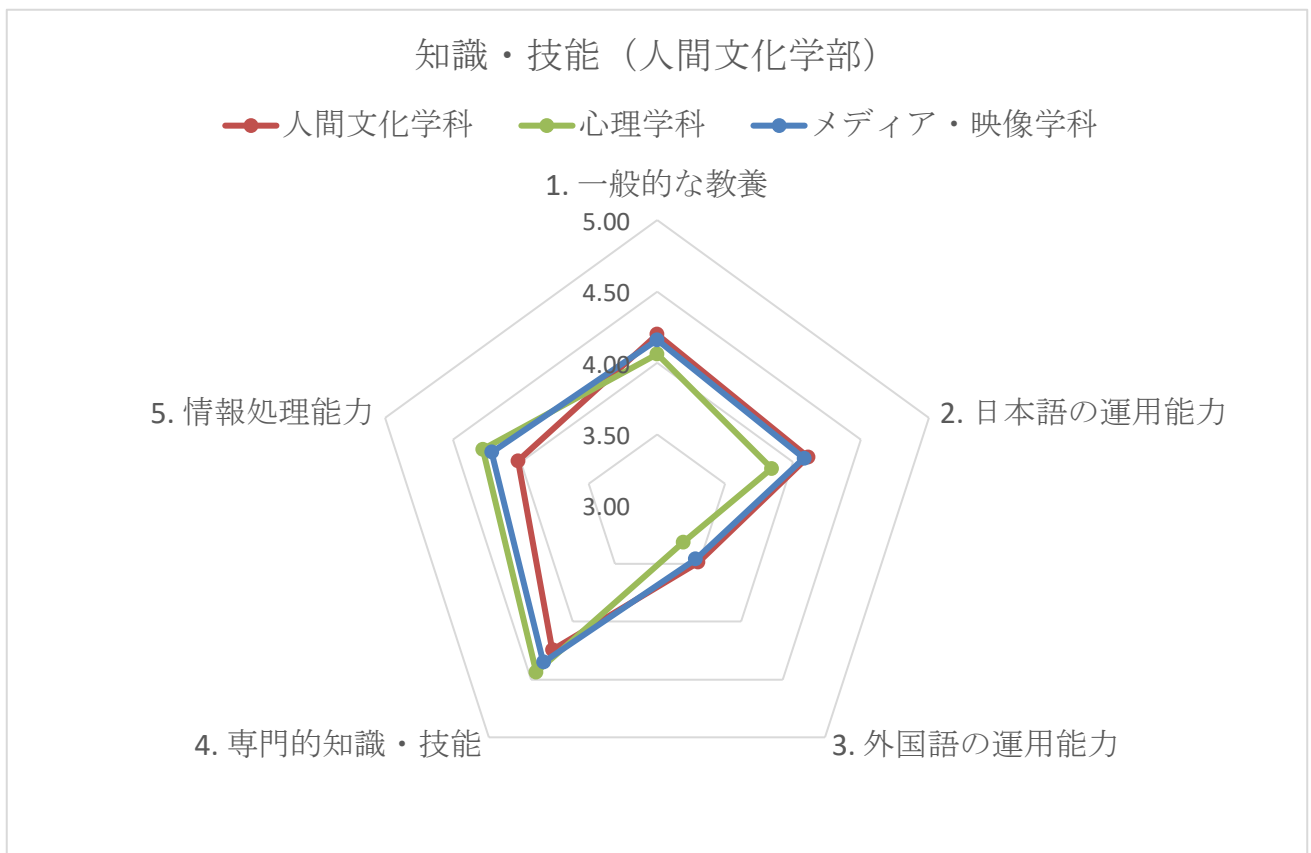


図4 知識・技能面での自己評価（人間文化学部）

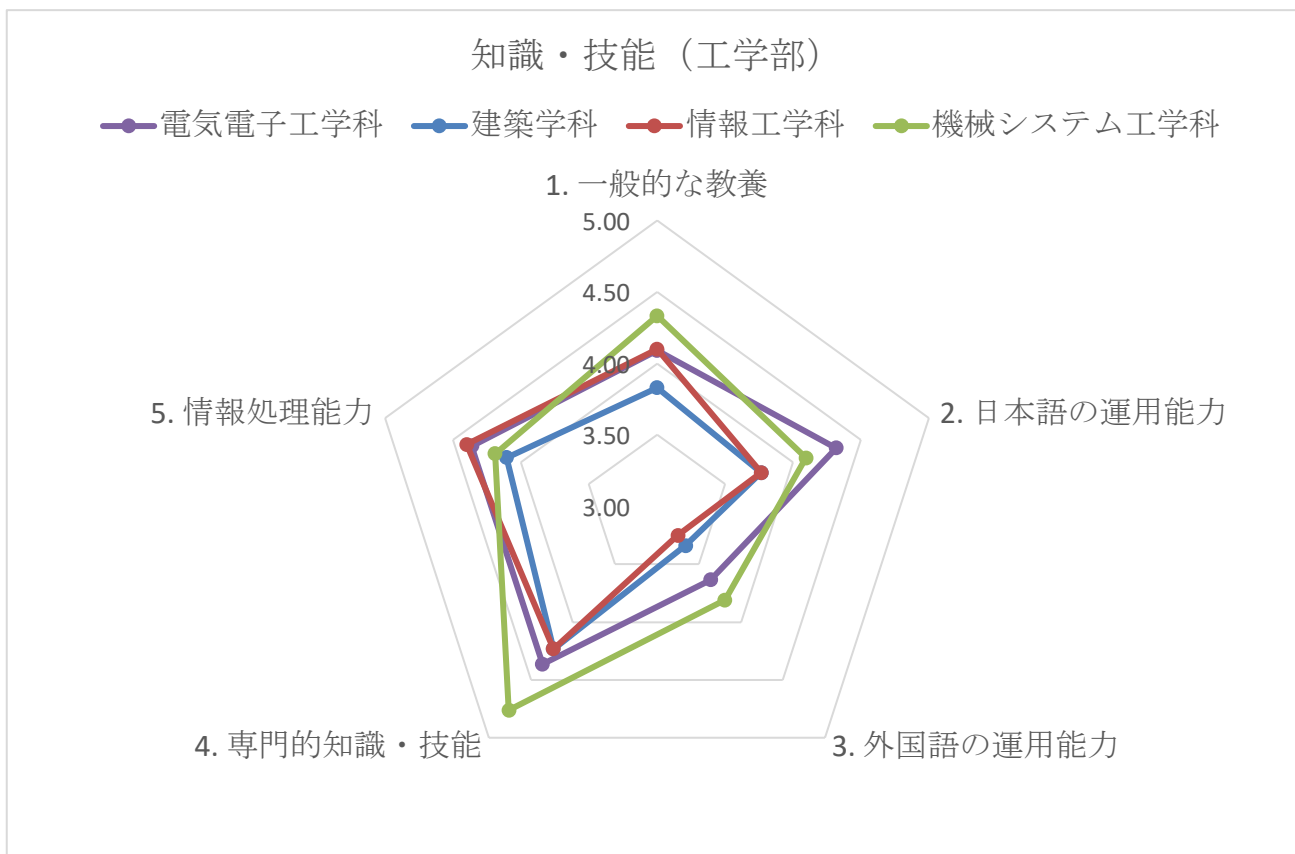


図5 知識・技能面での自己評価（工学部）

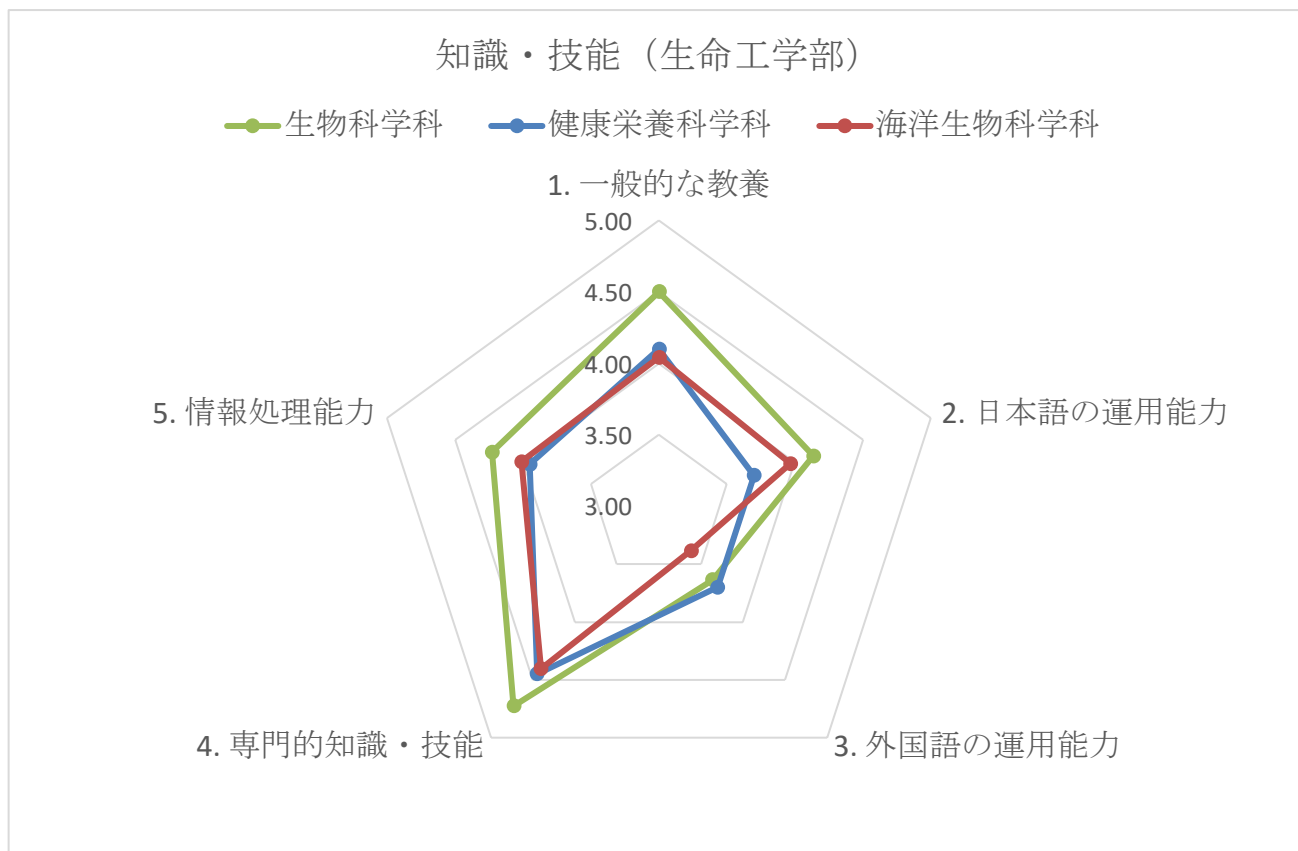


図6 知識・技能面での自己評価（生命工学部）

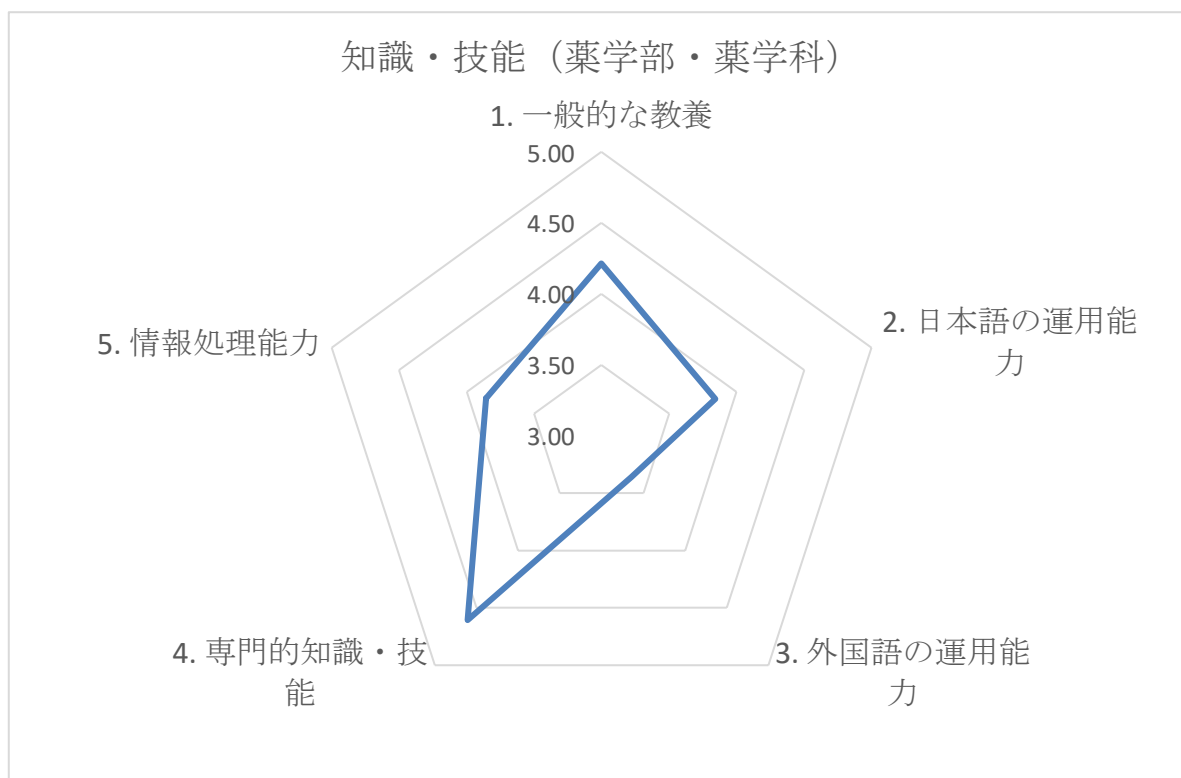


図7 知識・技能面での自己評価（薬学部）

「日本語の運用能力」については、理科系学科である電気電子工学科のスコアが4.33と高い水準になっている（図5）。「日本語の運用能力」は、国際経済学科も同様に高いスコアになっている（図3）。これら2学科は外国人留学生の在籍率が高いことが一因であると考えられる。

また、国際経済学科においては、「外国語の運用能力」が他学科と比べて特徴的に高くなっている（図3）。これは、学科の特色が有意に表れていると言える。

「コンピュータを用いた情報処理能力（情報処理能力）」では電気電子工学科と情報工学科において、4.4点を超える高い自己評価が認められた（図5）。

### (3) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか（態度・精神面）

各項目の平均点は、「リーダーシップ」を除いておよそ4点前後である（図8）。

具体的な回答割合を見てみると、「他者を理解する力」で32.1%の学生が「大きく向上した」と回答しており、最も評価の高い項目であった。続いて、「協調性」（31.0%）、「チャレンジ精神」（30.7%）、「自己理解」（30.7%）が「大きく向上した」の比率が高い項目であった。一方、「リーダーシップ」で「大いに向上した」と回答したのは、15.7%で最も低かった（図9）。「リーダーシップ」以外の8項目については、

「大きく向上した」と「向上した」を合わせた回答率が70%を超えており、肯定的な評価を行っていた。この傾向は、昨年度の調査結果と同様となった。

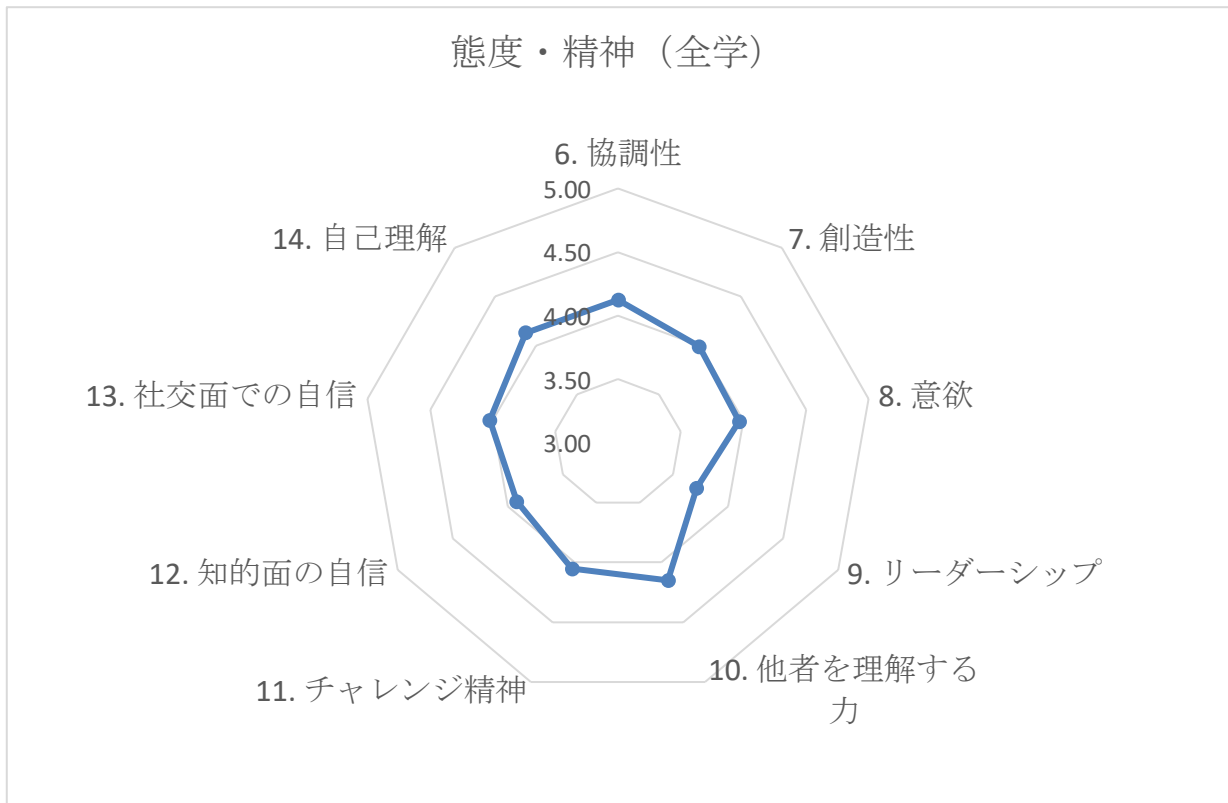


図 8 態度・精神面での自己評価 (自己評価結果の平均、全卒業生)

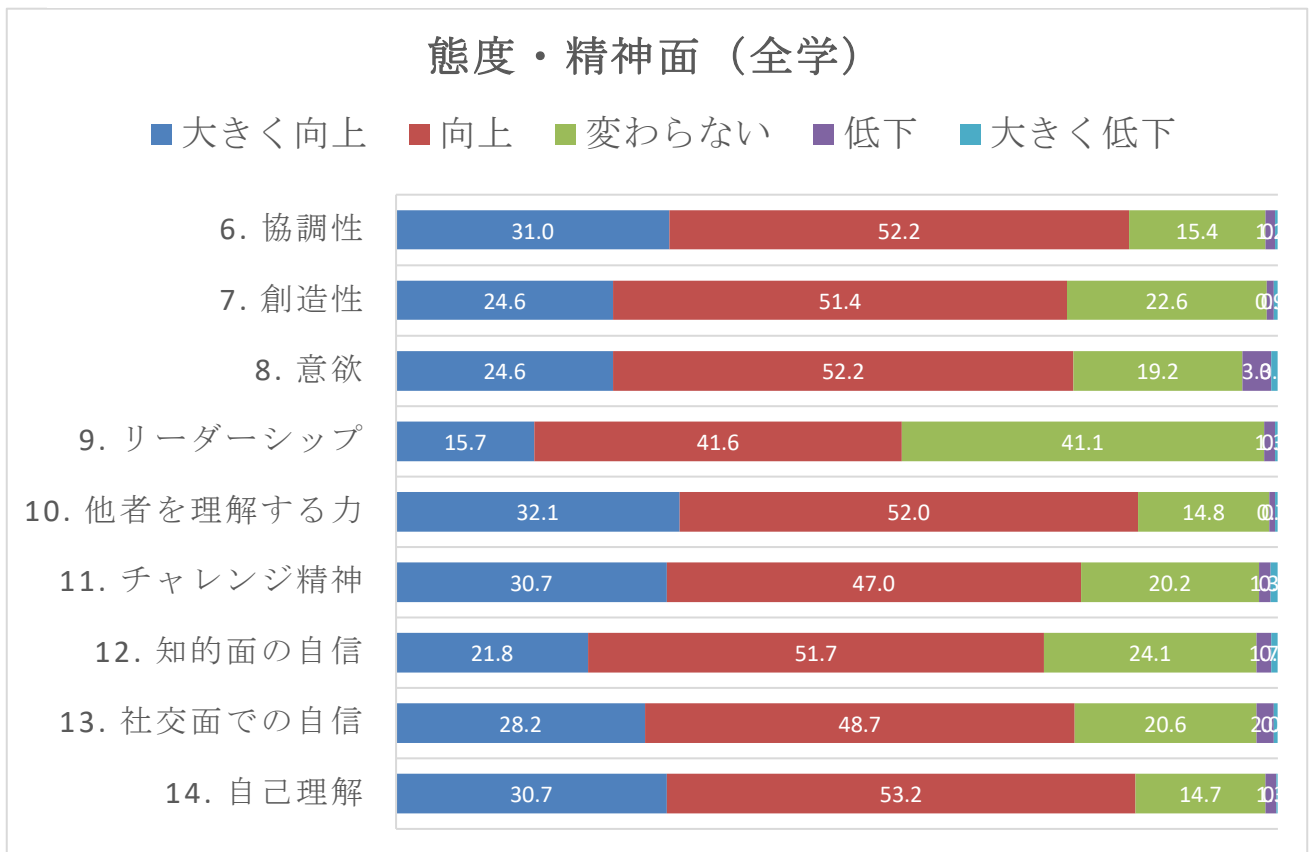


図 9 知識・技能面での具体的回答割合 (全学)

続いて、学部学科別の解析結果を示す。

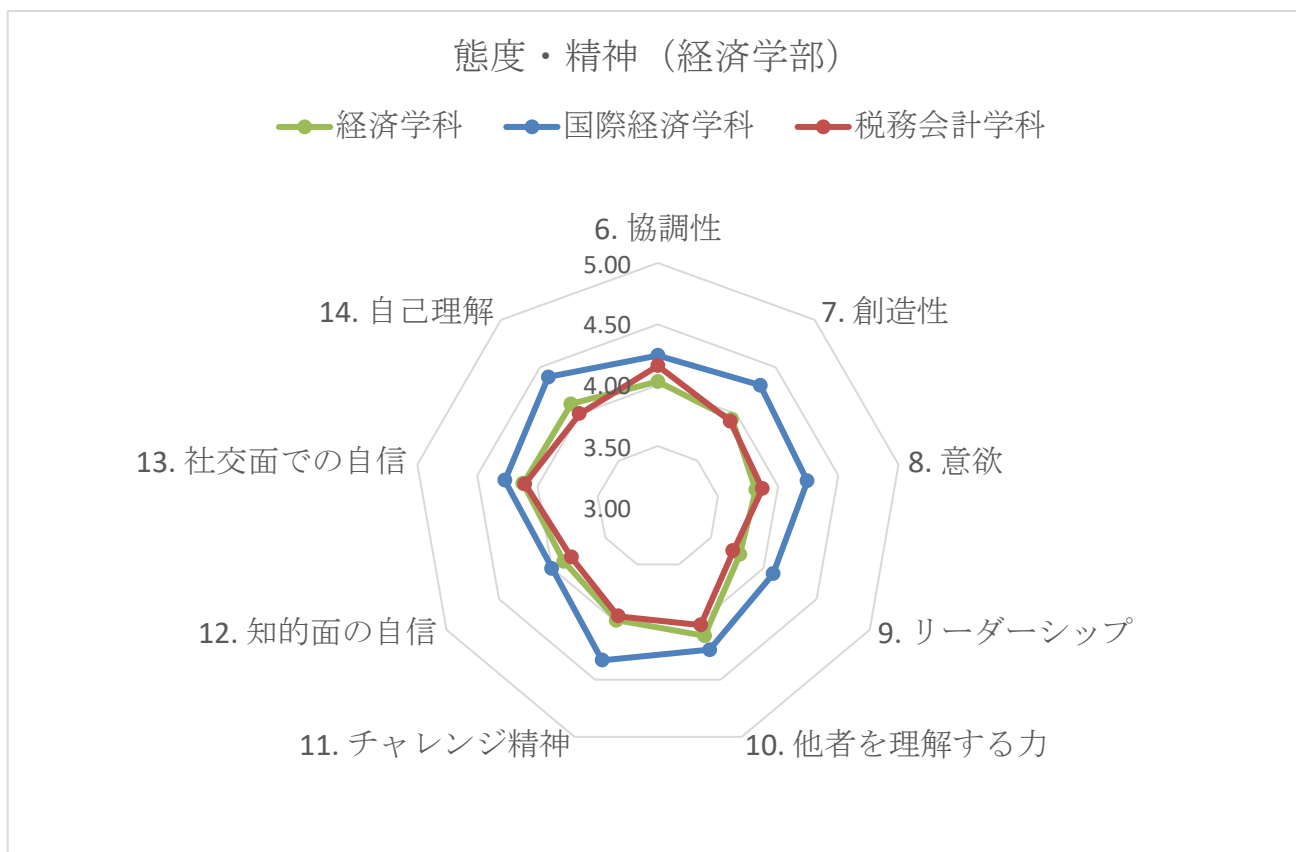


図10 態度・精神面での自己評価（経済学部）



図11 態度・精神面での自己評価（人間文化学部）



図12 態度・精神面での自己評価（工学部）

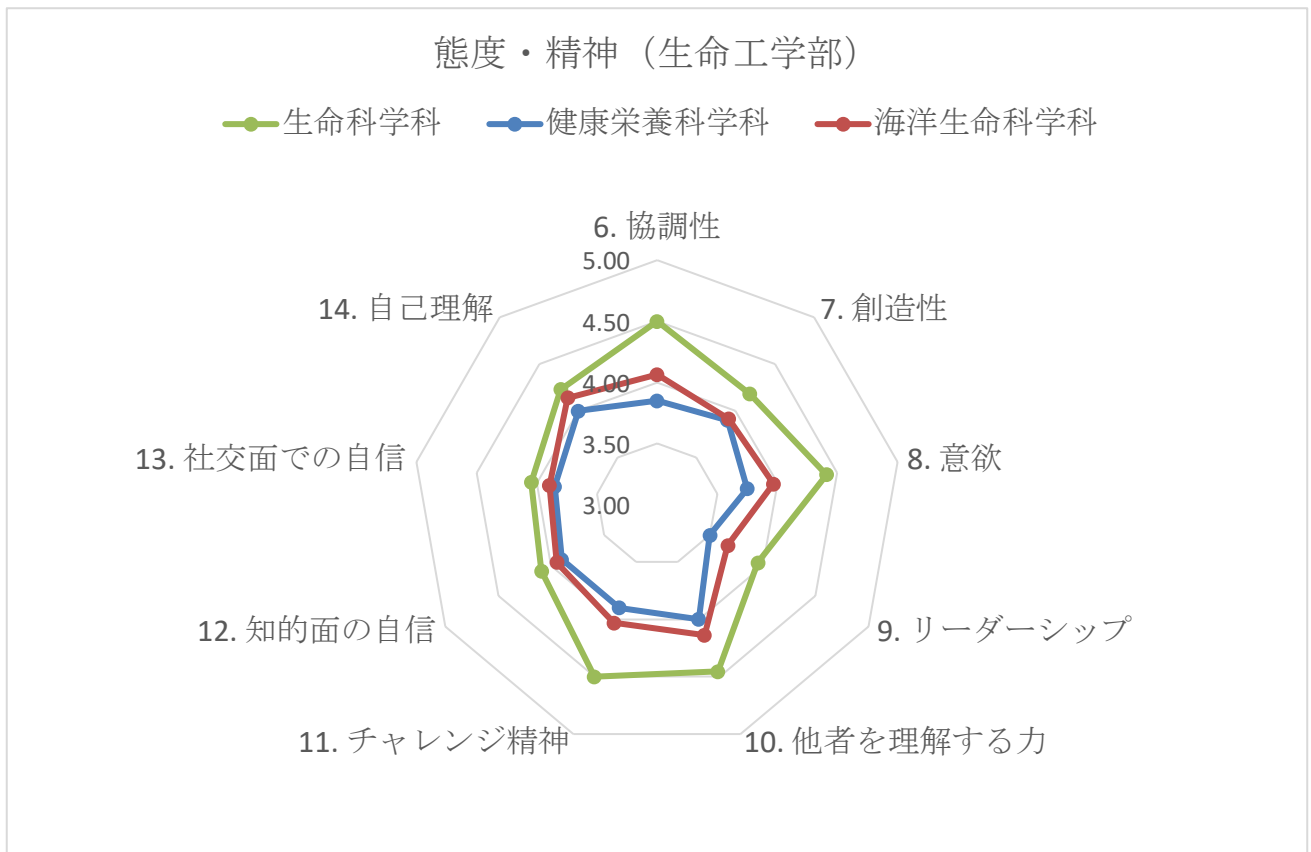


図13 態度・精神面での自己評価（生命工学部）

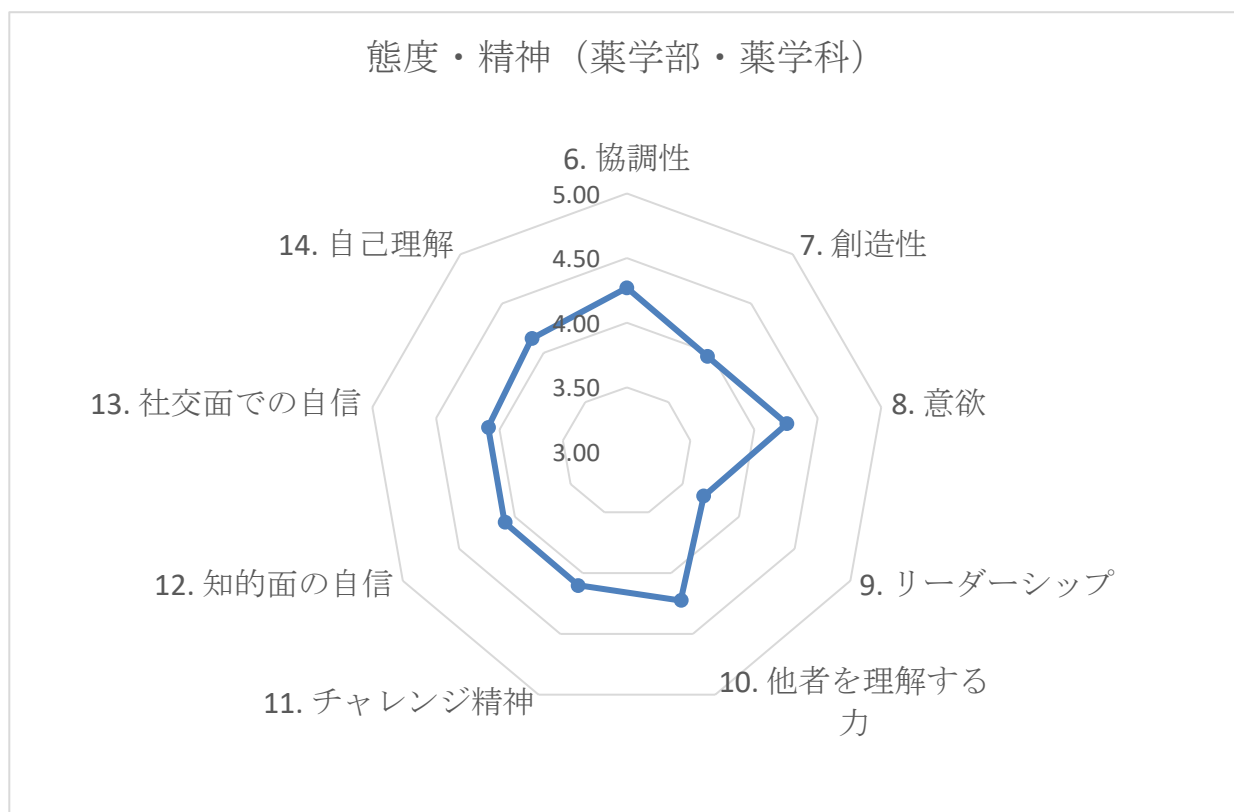


図14 態度・精神面での自己評価（薬学部・薬学科）

全体の結果と同様に、「リーダーシップ」が低くなる傾向があるが、学部学科固有の特徴も現れている。国際経済学科（図10）は、全体に高く「リーダーシップ」のポイントも高い。心理学科（図11）は、「他者を理解する力」が4.47と顕著に高く学科の特徴を反映していると推定できる。工学部では機械システム工学科が全体的に高く、特に「創造性」が高く、工学部らしさが現れていると言える。生命工学部では生物科学科のポイントが全体的に高く、中でも「協調性」「他者を理解する力」「チャレンジ精神」が4.5点に達している。

#### （4）福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

各項目の評価平均点は、すべての項目で3点台前後であった。最も評価の高い項目は、「専門分野の授業（4.0点）」、低い項目は「外国語の授業（3.6点）」「学生同士の一体感（3.7点）」であった。（図15）。分布形状としては”お結び型”となった。

具体的な回答割合（図16）を見てみると、「専門分野の授業」で79.2%の学生が「とても満足している」あるいは「満足している」と回答しており、続いて、「教職員による学生支援体制」72.1%、「共通教育の授業」68.4%、「キャリアに対する授業内容の有効性（キャリアへの有効性）」66.8%、「大学の中での学生同士の一体感（学生同士の一体感）」57.9%、「外国語の授業」52.6%であった。

「外国語の授業」「大学の中での学生同士の一体感（学生同士の一体感）」は、「とても満足」の割合が低いとともに、「不満」「とても不満」の割合も高くなっており、優先順位の高い改善点と言える。

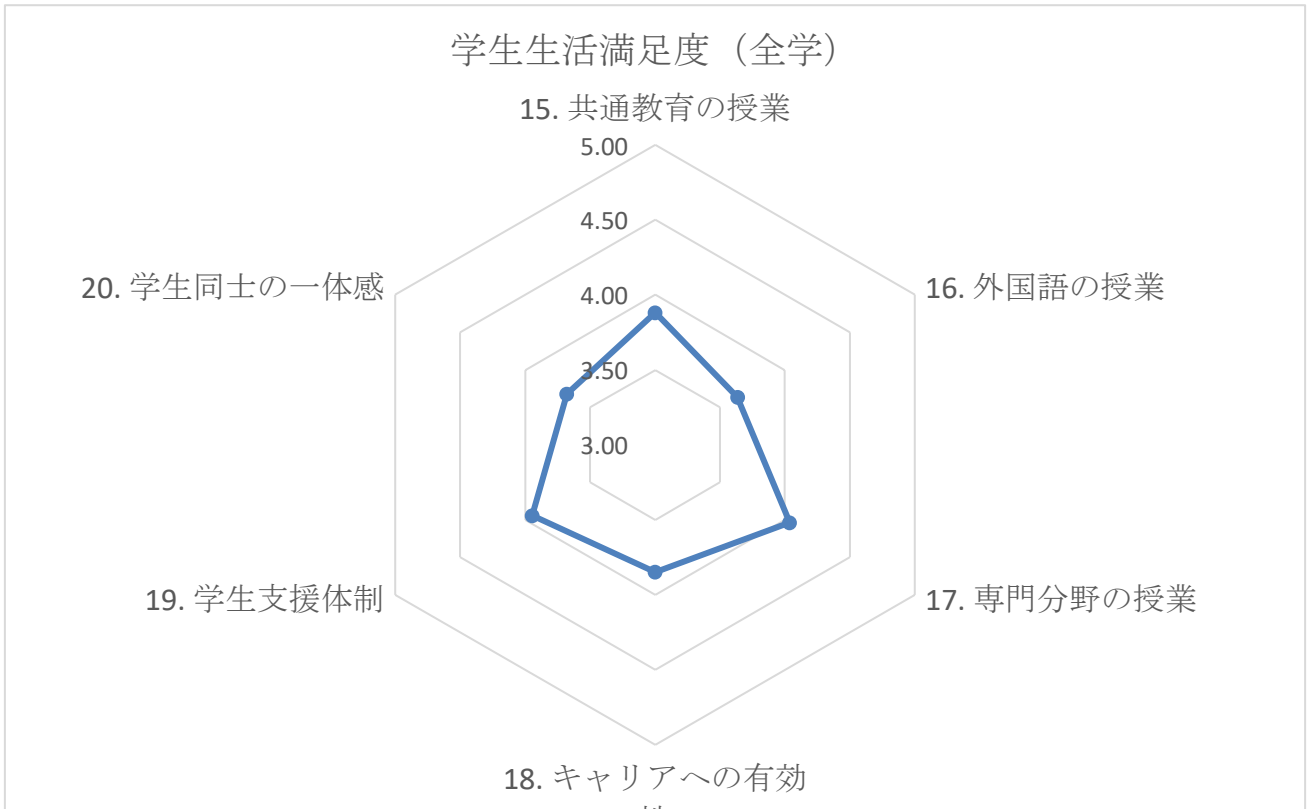


図15 学生生活の満足度（学生による評価結果の分布、全卒業生）

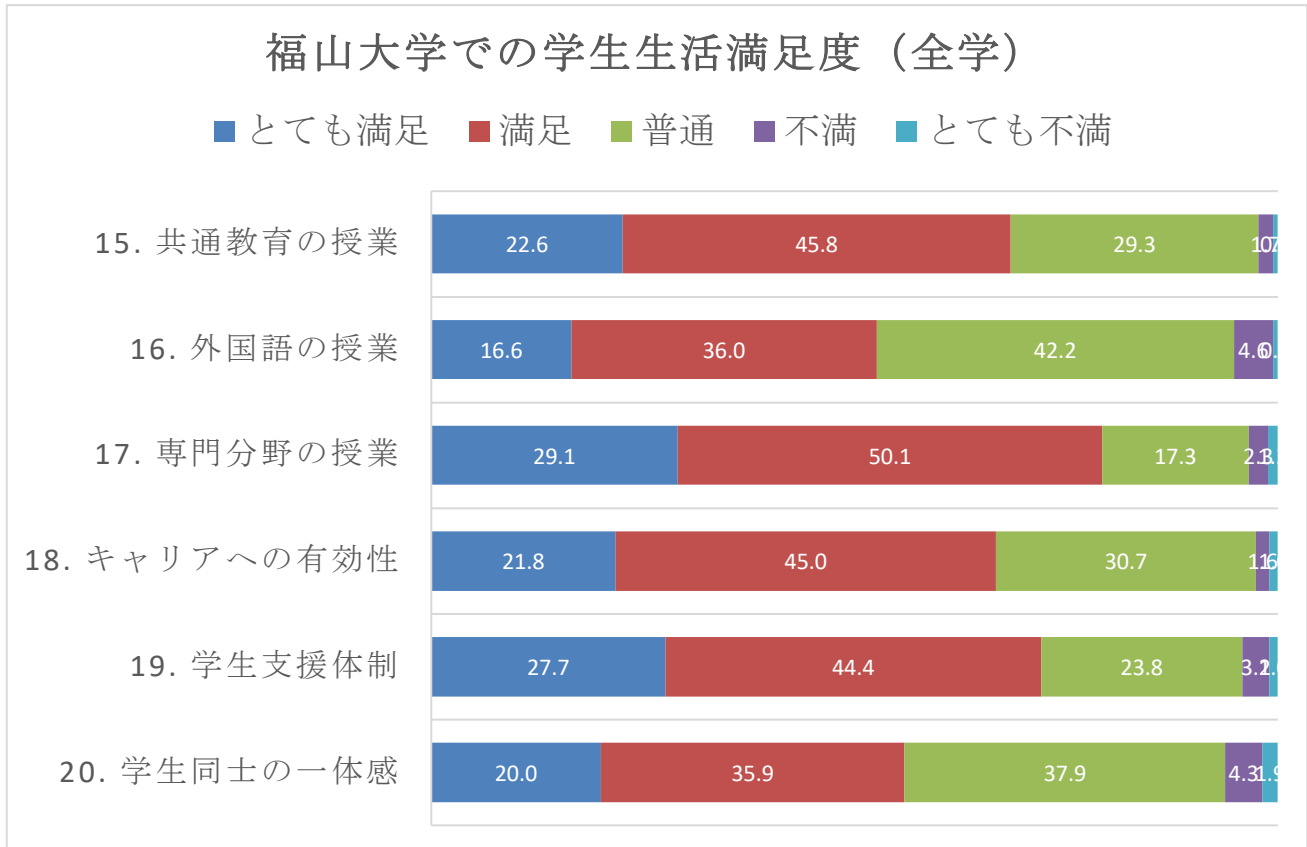


図16 学生生活の満足度の具体的回答割合（全卒業生）

続いて、学部学科別に解析を行った結果を示す。

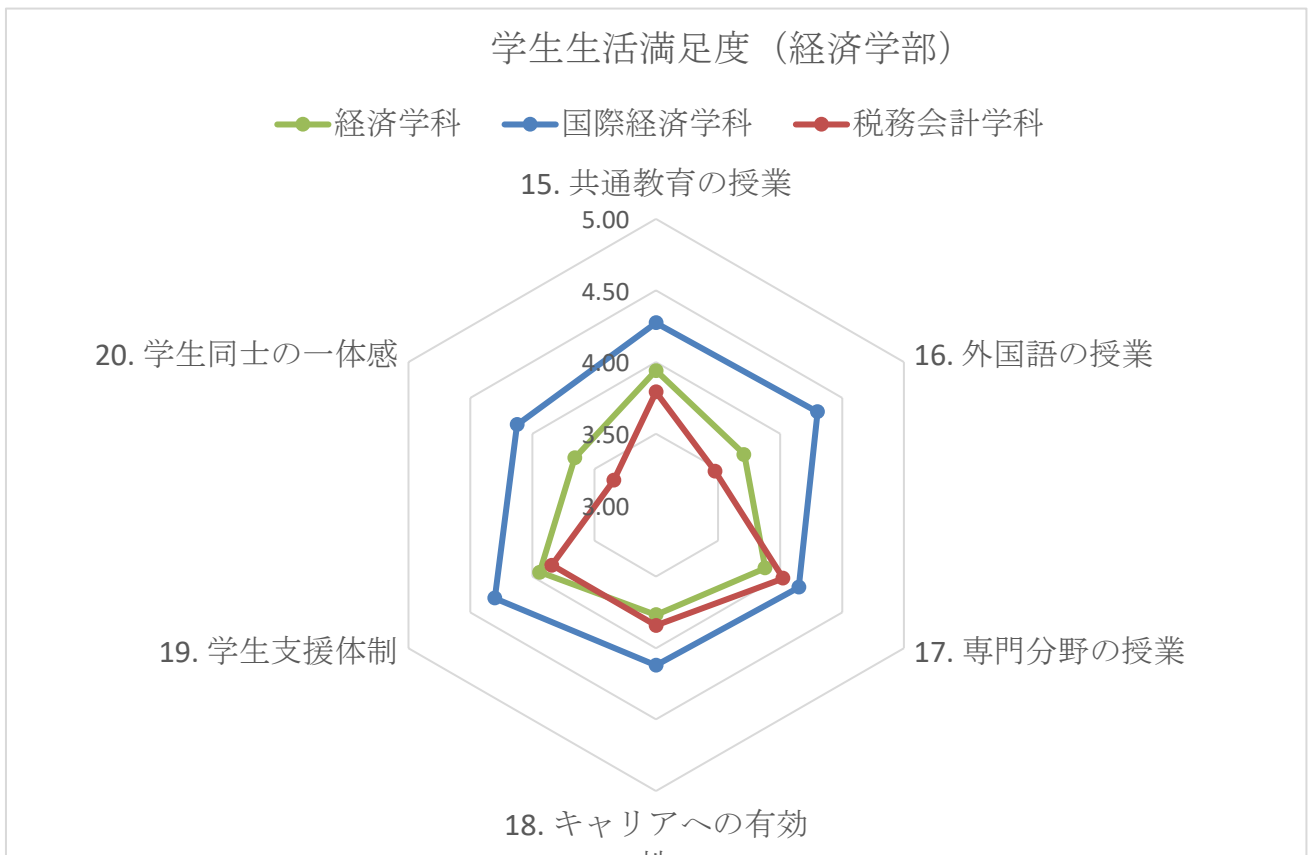


図17 学生生活の満足度（経済学部）

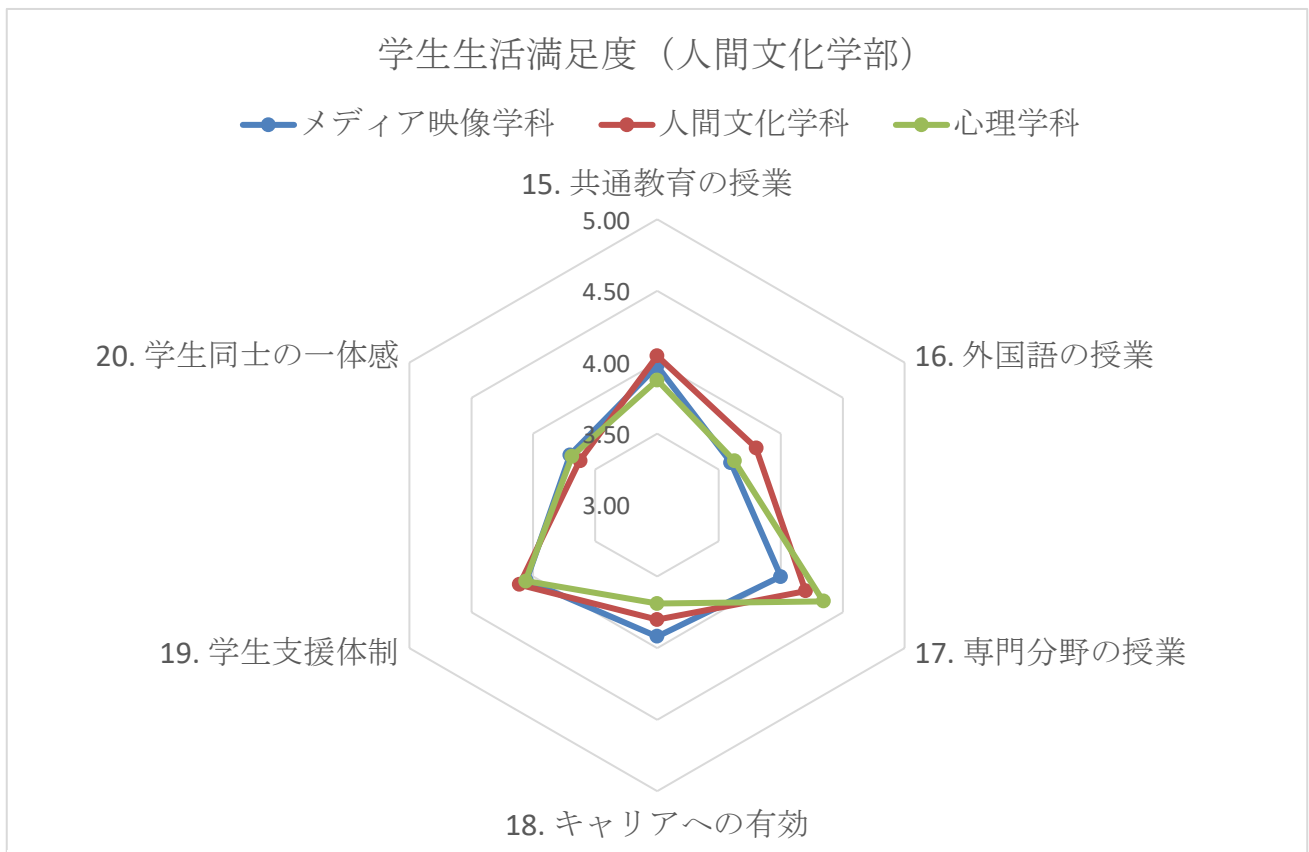


図18 学生生活の満足度（人間文化学部）



図19 学生生活の満足度（工学部）

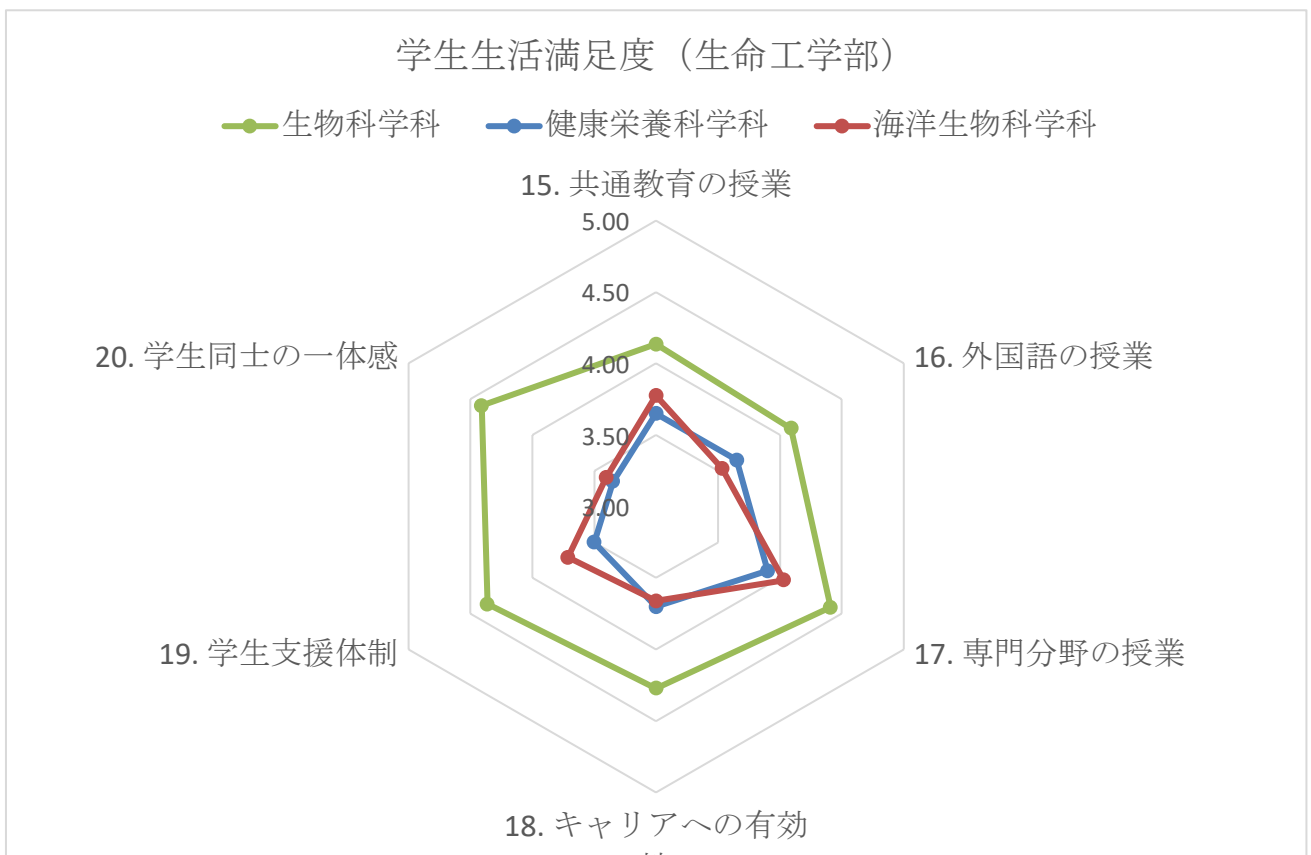


図20 学生生活の満足度（生命工学部）

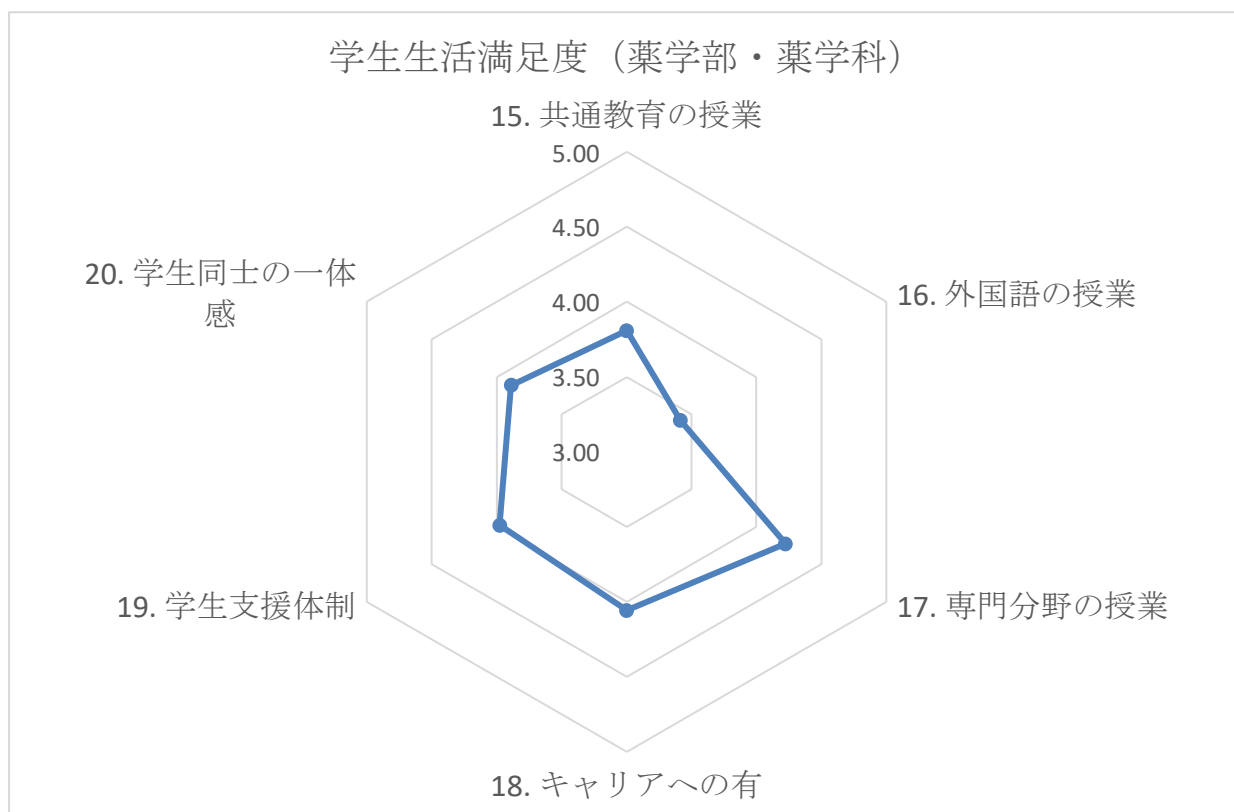


図21 学生生活の満足度（薬学部・薬学科）

全学の分布傾向（おむすび型）に類似した学科が多いが、国際経済学科、電気電子工学科、生物科学科、薬学部はそれとは異なる分布傾向がみられる。全学で低いポイントとなっていた「学生同士の一体感」に注目すると、国際経済学科、電気電子工学科、生物科学科で4点を超えており、在籍者数との因果関係があると推定できる。

また、全学、学科別でもポイントの低い「外国語の授業」については、国際経済学科で4.3点、生物科学科で4.0点と高いポイントを示しており、学科における外国語教育の充実が推定される。

結果として、国際経済学科、生物科学科は調査項目に於いて、まんべんなく高い満足度となっている。

**(5) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？**

本設問の回答結果を図22に示す。まず、全体平均（全学）において、「100%」あるいは「80%」と回答した卒業生の割合は72.0%であった。2024年度では、68.7%、2023年度では63.1%、2022年度・2021年度では70.1%であった。2022年度以来の水準に戻った感があり、コロナ禍の閉塞的な状況が改善されていたと推定される。

学科別に同様の解析をすると、満足度が「100%」あるいは「80%」と回答した卒業生の割合は、学科の特徴が現れる。この指標を用いたとき、卒業生の満足度の高い学科（「100%」及び「80%」と回答した学生が全学平均73.0%を上回る）は、国際経済学科（81.9%）、税務会計学科（73.7%）、心理学科（84.4%）、メディア・映像学科（78.4%）、電気電子工学科（77.3%）、機械システム工学科

(76.4%)、生物科学科(81.9%)、薬学科(80.9%)であった。但し、及第点(60%以上)の観点からみると、評価の二極化が現れている学科もあると考えられる。その中で、機械システム工学科においては、全卒業生が及第点を与えていることは、特筆すべき事であると言える。3ポリシーとの整合が成功した例と考えられる。

これまでの調査項目(1)から(4)のポイント(アンケート設問1から設問20までの平均)と、調査項目(5)の満足度率(%)の相関を示したものが、図23である。また、全学回答において、満足度率を100%と回答した卒業生の20項目の平均ポイントは4.50、以下、80%と回答した者の平均ポイントは3.98、60%で3.59、40%で3.28、20%で3.07、0%で2.45であった。これらの結果より、項目別の充実感、肯定感と包括的な満足感には有意な関係があると言える。

設問1から設問20までの20項目の内、この項目(満足度)との間に強い関連が認められた項目は、「20. 学生同士の一体感」「18. キャリアへの有効性」「19. 学生支援体制」「15. 共通教育の授業」「8. 意欲」であった。

#### (6) 自由記述「あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？」に対する分析

以上の解析内容を踏まえたうえで、自由記述内容との関連から、満足感に影響を与える因子を推定

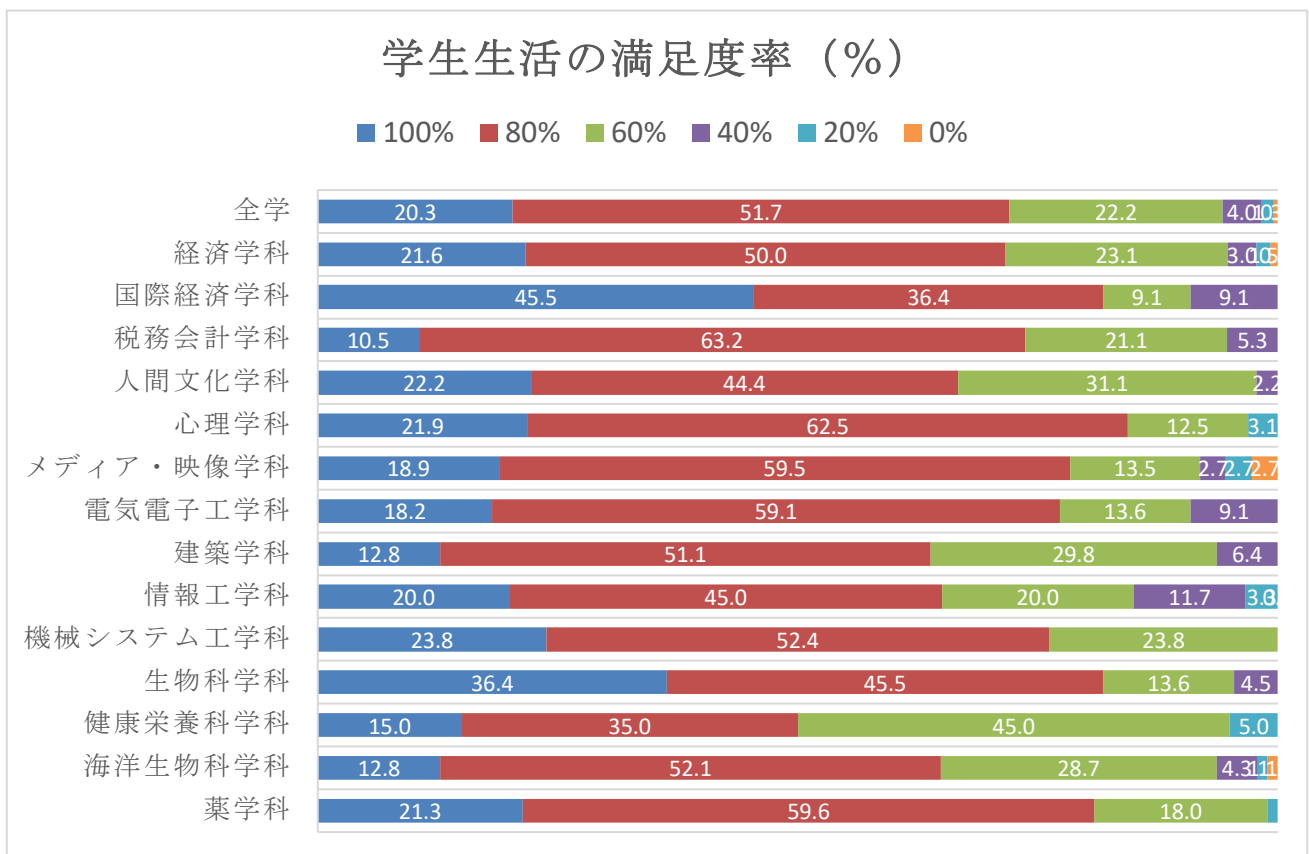


図22 学生生活の満足度率 (%)

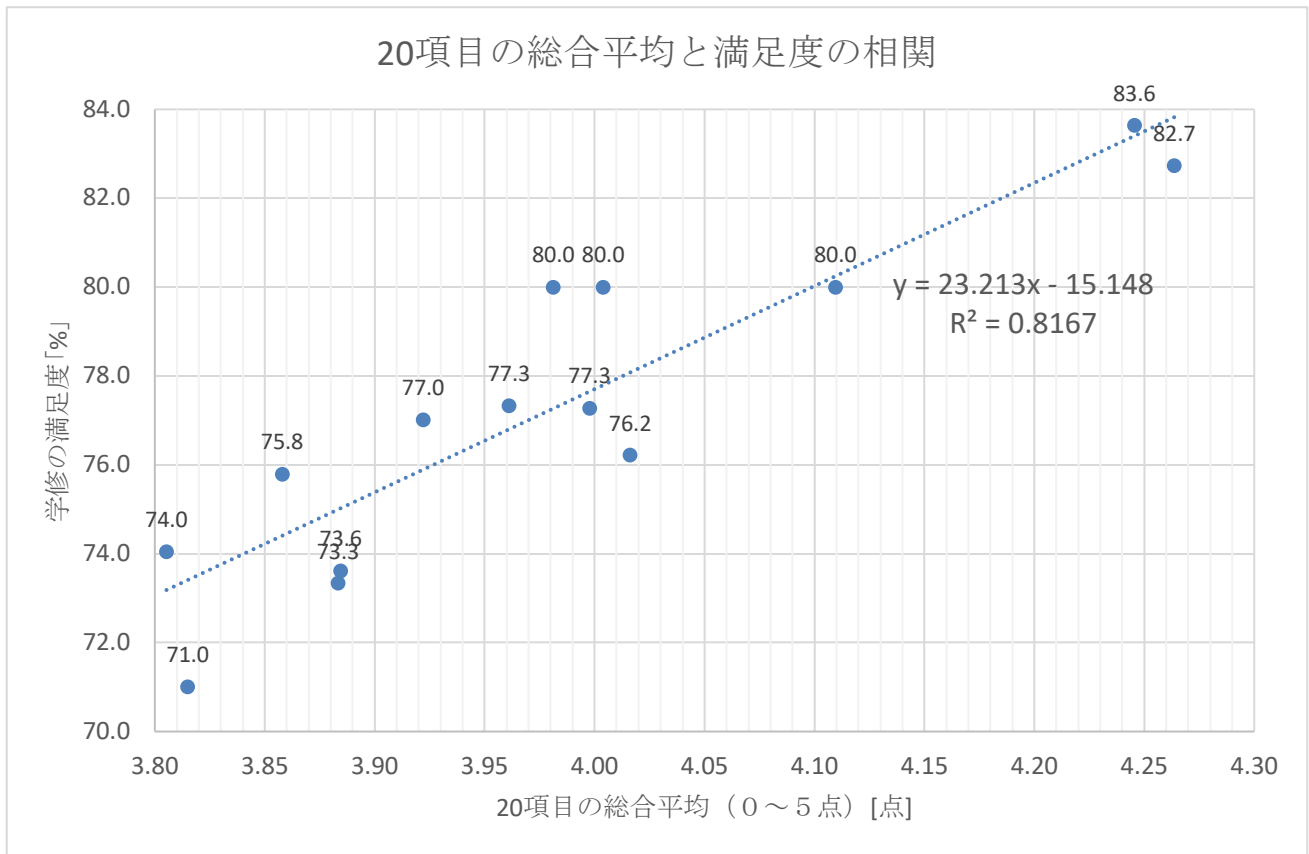


図23 20項目の設問の平均ポイントと学生生活の満足度率（％）の相関図

する。

表2は、自由記述内容をテーマごとに分類し、係る内容の回答者の満足度の高低の割合を解析し、傾向を「示唆」として、まとめたものである。実際の代用的意見も記載する。

#### 【総括】

「学修を振り返るアンケート実施報告書」に基づき、その内容をまとめた総括する。

表2 自由記述（要望）内容のテーマ分類と要望の傾向分析

テーマ	件数	高満足群比率	中低満足群比率	代表意見	示唆
履修・授業選択の拡充	64	18.4%	13.7%	語学科目をもう少し取る	履修の自由度・他学部科目・コミュニケーション系科目への要望が目立つ。
専門分野の深化	58	14.3%	18.6%	もう少し専門分野について、深く研究をしたい	専門性をさらに深めたいという前向きな要望が多い。
課外活動・一体感	38	11.0%	7.8%	サークルなどの加入して、交友関係を広げたい。	サークル・交流・グループワークの経験が満足感に寄与。
語学・外国語	30	8.8%	5.9%	語学科目をもう少し取る	語学強化を望む声と、外国語授業の見直しを求める声が併存。
資格・教職	30	7.0%	10.8%	公民の免許もとりたかった。	資格取得・教職課程拡充への期待が強い。
学生支援・事務対応	15	2.6%	7.8%	相談しやすい場所を望みます。	低満足群で相対的に比率が高く、窓口対応や相談しやすさが課題。
施設・設備	13	3.7%	2.9%	より設備の整った環境での学習の機会	設備改善は限定的だが、学習環境整備の要望が継続的にある。
実践・実習	14	4.4%	2.0%	実践の機会が欲しいです。	実践型学習・現場機会の拡充ニーズがある。
キャリア・就職	13	3.3%	3.9%	就職に向け必要な資格や検定の勉強が必要だと感じた。	就職準備やマナー、早期キャリア支援への要望がある。

### 1. 調査の概要と回答状況

本調査は、令和7年度の卒業生を対象に、学修支援システム「セレッソ」を通じて実施した。対象者731名のうち694名から回答が得られ、回答率は94.9%と非常に高い水準であった。

### 2. 学修成果の自己評価（知識・技能・態度面）

\* 知識・技能面：全体として\*\*「専門的知識・技能」の向上が最も高く評価\*\*されており、40.8%の学生が「大きく向上した」と回答している。一方で、「外国語の運用能力」は平均3.5点と他の項目に比べて低く、課題として残る。

\* 態度・精神面：「他者を理解する力」や「協調性」で高い向上感が見られる一方、「リーダーシップ」の向上感は15.7%と最も低い結果となった。

\* 学科別の特徴：心理学科では「他者を理解する力」、機械システム工学科では「創造性」など、それぞれの学部・学科の教育特色が学生の自己評価に明確に反映されていた。

### 3. 学生生活の満足度と要因分析

\* 満足度の推移：学び全体に対する満足度（80%以上と回答した割合）は72.0%であり、前年度（68.7%）や前々年度（63.1%）と比較して上昇した。これはコロナ禍による閉塞感が改善された影響と推定される。

\* 満足度の高い学科：特に機械システム工学科では、全卒業生が及第点（満足度60%以上）を与えており、「3ポリシー」に基づいた教育との統合が成功している例として特筆される。

\* 満足度に影響を与える因子：解析の結果、包括的な満足感には「学生同士の一体感」「キャリアへの有効性」「学生支援体制」「共通教育の授業」「意欲」の5項目が強く関連していることが明らかになった。

### 4. 今後の課題と改善の方向性

自由記述や低評価項目の分析から、以下の点が今後の改善点として示唆された。

\* 教育内容の充実：満足度の高い学生からは「履修の自由度向上」や「専門分野のさらなる深化」を望む声が多く、前向きな学修ニーズへの対応が求められる。

\* 語学教育と一体感の醸成：満足度が比較的低い「外国語の授業」や「学生同士の一体感」は、優先的に取り組むべき課題。

\* 学生支援体制の質向上：満足度が低い層において「窓口対応」や「相談しやすさ」を課題視する傾向があり、事務対応を含めた支援体制の整備が重要。

この報告書は、本学の教育が専門性の習得において高い成果を上げていることを示す一方、学生同士の交流や外国語教育、そして学生支援の質においてさらなる改善の余地があることを示している。

# 福山大学 卒業生アンケート：4年間の学びと成長の軌跡

## 自己成長の評価（知識・技能・態度）



40.8%が「専門的知識・技能」の大きな向上を実感  
多くの学生が、大学での学びを通じて専門分野の力が飛躍的に伸びたと回答しています。



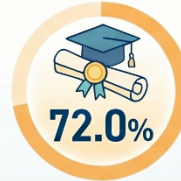
「他者理解」と「協調性」が精神面で大きく成長  
態度面では、周囲を理解する力や協力する姿勢に自信を持つ卒業生が目立ちます。

外国語運用能力の向上には課題が残る  
知識・技能面の中で唯一平均点が低く、今後の教育改善の優先ポイントです。

### 全学的な成長実感（「大きく向上」の回答割合）の上位項目



## 学生生活の満足度と総括



卒業生の72.0%が「高い満足度（80%以上）」を回答  
全体的な満足度はコロナ禍前と同水準に回復し、肯定的な評価が広がっています。



「学生同士の一体感」が満足度向上の鍵  
一体感や支援体制の充実が、大学生活全体の包括的な満足感と強く相関しています。



「専門分野の授業」が満足度を牽引  
個別の満足度項目では、専門教育の内容が平均4.0点と最も高く評価されました。

### 学科別の回答率

全学平均回答率：94.9%  
回答者数：694名  
対象者数：731名

【付記】 令和7年度 福山大学での学修を振り返るアンケート調査結果まとめの図